

なかまの



NO.553 全日本建設交通一般労働組合秋田県本部機関紙
2022年8月5日発行 〒010-0976 秋田市八橋南1-2-29
TEL018-823-7748 fax018-823-7751
Email: kenkourouakita@bz03.plala.or.jp

ダンプキャラバン行動を実施

7月19日～22日、第29回全国ダンプキャラバン東北行動がとりくまれ、秋田県内は22日に行われ、国交省能代・秋田・湯沢河川国道事務所に要請しました。

要請の中心課題であるダンプ規制法第12条団体の使用促進措置については、「ダンプ規制法の目的」は何を指しているのかに焦点を当てた説明に集中。この問題では今回も、「施工計画書提出時に主任監督員から指導している」「今後とも機会をとらえて指導する」との回答があったので、この繰り返しでは問題解決にはならないと指摘しました。

霞が関の国交省工事監視官の事務連絡文書に「昨今、指導事項が遵守されない事例が見受けられるため」とあるのは、建交労の指摘を受けて出された文書だからであり、問題ある請負者への個別指導を求めていることを説明しました。そのうえで、ダンプ規制法成立に至る国会議事録を示して、12条団体だけがダンプ運賃の適正化に貢献できること、12条団体が主体性を持って活動すればダンプ規制法の目的は完ぺきを期し得ることを説明しました。

いくつかの河川国道事務所の副所長からは、「今回の説明を聞いてよく理解出来ました」との感想が出されました。これを受けて建交労からは「上局とも相談してとあるが、上局はこれをやるな、あれもやるなとは言っていないはず、河川国道事務所が最大限できる範囲での請負者指導を求めると強調しました。

核兵器のない世界へ ウィーン宣言

すべての国が条約に参加するまで努力し続ける

お盆休みのため、8月11日～16日まで事務所を閉じます。

コロナ禍3度目の夏、第7波渦中◆新型コロナウイルス感染者が7月半ばで累計1千万人を超えてしまいました。秋田県でも毎日数百人越えです。どこまで拡大するのか、感染急拡大の原因となっているオミクロン株の新系統「BA.5」は、これまでに流行したアルファ株やデルタ株などに特徴的だった計5か所の変異を全て備えているという。専門家は「BA.5については「感染力や免疫から逃れる能力が、さらに高まっている可能性がある」と警戒している。◆夏季に感染者が増える理由は、人の移動が増えることだけでなく、冷房をつけた屋内では活動が増え換気が滞りがちになります。またワクチン3回目接種による免疫が徐々に減衰してくることも増加要因です。「免疫が落ちてくるなら、ワクチン接種なんてそもそも必要ないのでは？」と思われるかもしれませんが。しかし、感染予防効果は落ちるものの、重症化予防効果はかなり高い水準で維持されます。車に乗るときのシートベルトのような意義があるため、個人的には接種には賛成です。◆コロナウイルス感染者が、日に10万人を超えたと聞いたらあつという間に20万人。秋田県でも毎日のように過去最多を更新し、第6波のピークの約2倍に達した。とにかく増加スピードは早いです。◆厚生労働省は、今秋以降の新型コロナウィルスワクチンの追加接種に、オミクロン株に対応した改良型ワクチンを導入する方向で準備することを決めた。国内産の塩野義製薬が開発した飲み薬「ソコバ」は承認を見送られました。オミクロン株対応ワクチンは、ファイザー社やモデルナ社が開発中ですが、ウイルスが変異株する前に開発できるか? ◆オミクロン株の新系統、別称「ケンタウルス」と言われる変異株(BA.2.75)は感染力と免疫回避力がBA.5より優れていると伝えられているし、急激に感染拡大している。専門家はケンタウルスに置き換わるのではと憂慮を示す。◆第7波の感染拡大が止まらない。国民の100人に1人が感染している計算になる。新たな行動制限はしないとする政府が、都道府県による「BA.5対策強化宣言」を新設する方向です。一人ひとりが規則正しい生活で免疫を高め、感染しないように不要不急の外出は自粛しましょう。(正)



最低賃金大幅引き上げへ

2022年度の最低賃金の引き上げにあたって、中央最低賃金審議会は8月1日、各県の目安をまとめました。地域間格差が課題になっていますが、秋田県は30円増の時間額852円の日安金額が示されました。これを受けて、秋田県最低賃金審議会は、まもなく引き上げ額を決めます。秋田県本部は、これに先立って意見書を審議会あてに提出し(7月14日)、意見書を提出した県労連などの組合と一緒に記者会見(上の写真)に参加しました。8月5日には審議会として労働局長に秋田県最低賃金額が答申される予定です。

県本部の出した意見書の内容は以下のとおりです。

1. 最低賃金をすべての地域で早期に時間額1,000円以上とすることを旨とし、本年度において大幅な引き上げを実現すること。
2. 全国一律最低賃金制度を展望し、地域間の最低賃金格差を大幅に縮小すること。
3. 最低賃金引き上げへの理解が得られるよう、「政府の責任において中小零細企業の経営支援を抜本的に強化すること」を審議会の意見として表明すること。

農林支部が定期大会

7月15日、農林支部はコロナウイルスの感染防止のため、9日間の討議期間をへて書面決議で第56回定期大会を開催し、執行部提案のすべての議案を承認しました。

また、以下の三役と執行部を再任で選出しました。

(敬称略)

執行委員長 浅利則夫
副執行委員長 山田金人、阿部信一、田中清一
書記長 佐藤博之

建交労定期大会が8月27日～28日に、新潟県湯沢町で開催されます。代議員として県本部の田中書記長特別代議員として佐藤執行委員が参加します。

八面六臂(はちめんろっぴ)

コロナ禍3度目の夏、第7波渦中◆新型コロナウイルス感染者が7月半ばで累計1千万人を超えてしまいました。秋田県でも毎日数百人越えです。どこまで拡大するのか、感染急拡大の原因となっているオミクロン株の新系統「BA.5」は、これまでに流行したアルファ株やデルタ株などに特徴的だった計5か所の変異を全て備えているという。専門家は「BA.5については「感染力や免疫から逃れる能力が、さらに高まっている可能性がある」と警戒している。◆夏季に感染者が増える理由は、人の移動が増えることだけでなく、冷房をつけた屋内では活動が増え換気が滞りがちになります。またワクチン3回目接種による免疫が徐々に減衰してくることも増加要因です。「免疫が落ちてくるなら、ワクチン接種なんてそもそも必要ないのでは？」と思われるかもしれませんが。しかし、感染予防効果は落ちるものの、重症化予防効果はかなり高い水準で維持されます。車に乗るときのシートベルトのような意義があるため、個人的には接種には賛成です。◆コロナウイルス感染者が、日に10万人を超えたと聞いたらあつという間に20万人。秋田県でも毎日のように過去最多を更新し、第6波のピークの約2倍に達した。とにかく増加スピードは早いです。◆厚生労働省は、今秋以降の新型コロナウィルスワクチンの追加接種に、オミクロン株に対応した改良型ワクチンを導入する方向で準備することを決めた。国内産の塩野義製薬が開発した飲み薬「ソコバ」は承認を見送られました。オミクロン株対応ワクチンは、ファイザー社やモデルナ社が開発中ですが、ウイルスが変異株する前に開発できるか? ◆オミクロン株の新系統、別称「ケンタウルス」と言われる変異株(BA.2.75)は感染力と免疫回避力がBA.5より優れていると伝えられているし、急激に感染拡大している。専門家はケンタウルスに置き換わるのではと憂慮を示す。◆第7波の感染拡大が止まらない。国民の100人に1人が感染している計算になる。新たな行動制限はしないとする政府が、都道府県による「BA.5対策強化宣言」を新設する方向です。一人ひとりが規則正しい生活で免疫を高め、感染しないように不要不急の外出は自粛しましょう。(正)

